

資料に親しむ会 令和7年度第2回

「暦の資料『日本長暦』を精読する。」

京都府立京都学・歴彩館職員が「暦の資料『日本長暦』を精読する。」を、下記のとおり開催しました。

記

- 日 時 令和7年6月18日（水）午後2時30分～3時30分
- 場 所 京都府立京都学・歴彩館1階 小ホール
- 参加者数 54名
- 内 容 渋川春海が、紀元前667年から貞享2（1685）年までの約2300年間の毎月1日の干支や月の大小を計算し、まとめた『日本長暦』という書物について、どのようなことが書かれているのかを読み解いた。
春海が暦の計算をする過程で作成した、古い時代の暦の記述をまとめた『日本書紀暦考』、日月食の予測にこれまで使われてきた宣明暦と春海の作成した貞享暦の正確さを比較した『古今交蝕考』についても紹介した。
- 参加いただいた方々のご意見 （参加者アンケートより）
 - ・ 普段あまり注目されない暦の検証について理解できた。
 - ・ 暦がこんなに変更されていったことは知らず、更にくわしく知りたいと思えました。
 - ・ 暦にも様々な種類や歴史があることがよくわかった。
 - ・ 今まであまり知る事のなかった題材であり興味深かったです。

（講座の様子）

